

ざいがい にほんじん 「在外」日本人

いけはら かいしゃ どうりょう けっこん さんねんご おっと ふにん
池原さんは会社の同僚と結婚した。三年後、夫のニューヨーク赴任
どうじ たいしゃ りゆう ふうふ かいがいふにん せいど
と同時に退社。理由は夫婦で海外赴任する制度がなかったからだ。そし
てワシントンのジョージタウン大学大学院で国際関係論を学ぶことにし
た。

いけはら だいがくいん はなし
じゃ、池原さんがアメリカの大学院へいらっしゃったころのお話を
き
聞かせください。

じぶん しゅうにゆう ひと たよ く じゆう いや
自分の収入がない、人に頼る暮らして自由がなくなるから嫌な
けっこん ふうふべつべつ ざいせい ふうふ かたち
んです。だから結婚してからも夫婦別々の財政でした。夫婦の形って、
わる べつ じぶん おや おも
それがいいか悪いかは別として、自分の親がモデルになると思います。
ちち かじ すす てつだ じぶん じぶん ひと
わたしの父は家事も進んで手伝うし、自分のことは自分でやる人で、
ふつう おも おっと ちが
わたしはそれが普通だって思っていました。けれど、夫は違っていました。
つま かじ おっと しんぶん よ てんけいてき にほん かていぞう
た。妻が家事をやって、夫は新聞を読んで...典型的な日本の家庭像
も たが はたら かじ きょうどうさぎょう
を持っていたんです。お互いに働いているうちは家事も共同作業に
いっぽう なつとく にほんしゃかい きはん あ
したかったのですが、その一方で納得いかぬまま日本社会の規範に合
どりよく
わせよう、と努力もしました。

かいしゃづと にちべい にちおうかん つうしょうもんだい たざき
会社勤めをしたときは、日米や日欧間の通商問題に携わってき
しよくば だんじょさべつ しごと
ました。職場も男女差別があまりなく、仕事はほんとうにおもしろかった。

ただ、いつも政治、経済や法律の基礎的な知識がない、と感じ、自分

たちのやっていることはほんとうに日本のためになっているのだろうか、

消費者のためになっているのだろうか、と疑問を抱き続けていました。そ

んなとき、彼のアメリカ赴任が決まったんです。

わたしはワシントンの大学院に行きたかったので、任務先の違う彼

とは別居しました。彼には多少無理を押し付けたような気もするけれど、

自分の人生は一度しかないでしょう。これで家庭に引きこもったら、子

どものおむつを替えていても何となく悔いが残る、そういう気がしたんです。

一度離れると、前々から気になっていた彼の日本的な男性中心の物

の考え方についていけなくなっていました。それで離婚したわけです。

もともと一人っ子で育ったし、両親とヨーロッパにいる二年間は

英国系の学校に通ったんですけれど、学校の関係でわたしだけ先に帰国

し、祖母と二人暮らし。親離れがとても早かった。両親も独立心を大事

にしろって育てたものですから自立心おうせいな性格になってしまって…

(笑い)。今もそれは変わりません。

池原さんは卒業と同時にアメリカのケーブルテレビの会社に就職した。

かいしゃ いちしゅうかん うご せいさく
この会社は一週間のワシントンの動きをまとめたビデオを制作した

にちべいかんけい せいじほうこくばんぐみ せいさく にほん おく かいしゃ
り、日米関係やアメリカの政治報告番組を制作して、日本に送る会社
である。

これからもワシントンでずっと？

せいじ かんしん こくさいかんけい きょうみ ひと
政治に関心があって、国際関係に興味がある人にとって、ワシントン
はたまらなくおもしろい所ですね。アメリカの側から世界が見える。

せいかつ たし ぶっか やす おな
アメリカのほうが生活しやすいのは確かです。物価が安いから、同じ
しゅうにゆう せいかつすいじゅん にほん たか にほん
収入だったら生活水準も日本よりもずっと高い。ただ日本のほうが
あんぜん
安全ですけれど。

なに こじんしゅぎ はったつ しゃかいてき
何よりもうれしいのは個人主義が発達しているから社会的なプレッ
くる にほん ていどねんれい どくしんじょせい りこん
シャーに苦しむこともない。日本はある程度年齢のいった独身女性や、離婚
じょせい い しゃかい おも
した女性にとっては生きにくい社会だって思います。

しばい だいず にほん きつぷ たか しゃかい い
オペラや芝居が大好きだから、日本のように切符の高い社会に行く
まず きぶん
と貧しい気分になってしまいます。

どうぶん
当分はワシントンでしょう。

やなぎはらかずこ ざいがい にほんじん しょうぶんしゃ
柳原和子 『「在外」日本人』 晶文社 より

